
蠟人形館の秘密

マ王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蠟人形館の秘密

【Nコード】

N1430L

【作者名】

マ王

【あらすじ】

あるところに1人の蠟人形技師がいた。
彼の蠟人形を気に入った富豪は、自分の蠟人形を作らせようとする
が…

（前書き）

この話は微グロです。
苦手な方は引き返してください。

あるところに1人の蠟人形技師がいた。彼が作る蠟人形はとてもリアルで、細部まで作りこまれた素晴らしいものだ。彼は自宅を改造し「蠟人形館」として一般開放していた。

ある日、1人の男が彼のもとを訪れた。

「私の蠟人形を作ってもらいたい。今までいろいろな蠟人形を見てきたが、あなたの作品が一番美しい」

男はある名家の当主で、自分の蠟人形を作らせようと世界中の蠟人形技師を尋ねてまわっているらしい。その結果、彼に依頼することに決めたようだ。

「申し訳ありませんが、依頼は受けないことにしています。売る気もありません。私はこの館に飾る為だけに作っているのです」
「……本当ですか？ こんなに素晴らしい作品なのに、もったいないですな。金なら好きなだけ出しますから何とか作っていただけませんか」
「いくらつまれても、私の考えは変わりません。お引取りください」
「……仕方ありません。今日のところは引き上げます。ですが、私は諦めませんよ」

翌日から男は毎日のように技師のもとを訪れたが、答えは変わ

らなかった。それでも男は諦めない。そして、その数日後のことだった。

「今日は記念すべき日です。あなたも毎日私にばかりかまっていなくて、どうぞ館を見学なさってください」

その日も変わらず来ていた男にそうすすめる技師。

「100体記念ですか……。いいでしょう。たまには見学していくのも悪くない」

そう、この日は館に100体目の蠟人形が展示される記念すべき日であった。男も、こんな日くらいはと館を見学することにしたのである。だが、男の目的は別にあった。

「……ふん。こんな館など……」

そしてその晩事件は起こった。館から火の手が上がったのだ。何と男は、見学するふりをして次元発火装置を仕掛けていたのだ。今まで下手に出ていた男が本性を現した瞬間だった。館は全焼したがその日は既に閉館しており、犠牲者は技師1人と見られていた。

男は翌日の新聞を見て愕然としていた。そこに書かれていたのは「101体の焼死体」と言う文字だったのである。入り口付近の遺

体は技師のものであることが分かったが、残りの100体は何故か所持品がなく身元不明とされた。

だが、その犯人だけは明確であった。何故なら100体の焼死体は、蝋人形が展示されてあったはずの場所にそれぞれ横たわっていたのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1430/>

蠟人形館の秘密

2010年10月18日21時26分発行